

遠野

2012 年度山形大学歴史・地理・人類学研究会 公開講演会

はくぶつかん

物

語

まちづくりと文化財レスキュー

「遠野物語」の里にある遠野市立博物館は、地域に根ざした博物館として、いま最も注目を集めている博物館です。また、昨年の東日本大震災の際の文化財レスキュー活動の拠点としても、大きな役割をはたしました。

このたび、本学出身であり、遠野市立博物館学芸員としてこれらの活動を先頭に立って進めてこられた前川さおりさんをお招きして、講演会を開催するはこびとなりました。

地域における博物館の役割とは何か？東日本大震災で被害にあった文化財はどのように救済されたのか？その最前線で活躍されている方のお話をうかがう貴重な機会です。どうかふるってご参加ください。

講師：前川 さおり氏

(遠野文化研究センター 調査研究課 主査兼学芸員)

日時：2012年6月16日(土) 14:30～17:00

会場：山形大学人文学部1号館205教室

(山形市小白川町1-4-12)

※入場無料、事前申込不要※

主催：山形大学歴史・地理・人類学研究会、山形大学人文学部

問い合わせ先：山形大学人文学部 三上 喜孝

(023-628-4240、mikami@human.kj.yamagata-u.ac.jp)

<左写真>

遠野文化研究センターが釜石市役所付近のガレキの中から発見し、持ち主をさがしていたところ、釜石市の「只越虎舞」の頭の一つで、「次郎」と名づけられていたものであることがわかりました。三陸に生きる人びとの精神文化のシンボルとして、これからも伝えられていくことでしょう。